

实用基础日语 强化教程

(第四册)

斬新の理念
斬新の解説
斬新の内容
斬新の設計

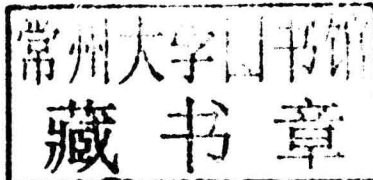


大连理工大学出版社

斬新の理念・斬新の解説・斬新の内容・斬新の設計

实用基础日语强化教程

(第四册)



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

实用基础日语强化教程. 第4册 / 杨树曾编著. —
大连: 大连理工大学出版社, 2010. 10
ISBN 978-7-5611-5666-7

I. ①实… II. ①杨… III. ①日语—教材 IV.
①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 140928 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708842 邮购: 0411-84703636 传真: 0411-84701466

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 185mm×260mm	印张: 19	字数: 438 千字
附件: 光盘 1 张		印数: 1~2000
2010 年 10 月第 1 版		2010 年 10 月第 1 次印刷

责任编辑: 宋锦绣 责任校对: 钟 宇
封面设计: 苏儒光

ISBN 978-7-5611-5666-7

定 价: 32.00 元

前言

总体介绍

人类已步入21世纪,我国人民同世界人民的交往日益频繁。外语作为交际手段,已越来越为人们所重视。日本是我国一衣带水的邻邦,两国人民有着两千多年的友好往来的历史。随着中日之间各领域交流的深入,我国的日语教育事业也取得了长足的发展。为了适应我国日语专业教学的需要,《实用基础日语强化教程》是本人在多年教学讲义的基础上整理而成的。它总结了十几年来课堂教学的实践经验,经广泛征求学生和教师的意见,对本教程进行了多方面的完善、提高。以全新的理念、全新的解说、全新的内容、全新的设计呈现给大家。

《实用基础日语强化教程》是专为日语专业学习者编写的大型日语教程。教程的内容包括听、说、读、写四种技能,同时进行语音训练和词汇扩展,尤其强调听说技能的培养。本教程主要目标是培养日语交际能力,即:根据交际情景、交际目的和交流对象灵活运用日语的能力。本教程所取内容并不局限于某一个国家、地区或文化学科,而是反映了日语作为交流用语的丰富性和多元性。

本教程共分4册。

1册:针对没有日语基础的“真正”的初学者,讲解语音、基础语法结构、词汇和语言功能。

2册:针对有初级日语水平的学习者,旨在进一步培养语法、词汇和语用技能,使学习者达到初高级水平。

3册:针对初高级水平的学习者,旨在进一步培养语法、词汇和语用技能,使学习者达到中级水平。

4册:针对中级水平的学习者,培养学习者用比较流利、精确的日语进行交际的能力。

本书特色

按每周10~12学时计算,每册课时安排为180~220学时。如果可用课时较多,可以借助教师用书中建议的可供选用的活动适当增加内容,延长课时。可以适当减少交流活动、阅读、写作、扩展和练习册方面的时间安排课时。

针对学习者学习日语而又不具备日语的语言环境这一特点,在教学法的取舍上,采用了迄今在我国获得极大成功的以教授语法体系为主的教学思想,对句型和言语交际技能有

所兼顾。这样可以使学生获得扎实的语言基础。

在语法体系上,主要参考了以奥田靖雄先生为代表的日本教育研究会·国语部会的语法理论,并且吸收了其他语法学说中合理的成分,从而让语法体系的设计更加完美,同时也更有利于学习者掌握。

在语法内容上,主要依据了国家教委1990年颁布的《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》。但在编排上,根据日语的实际应用,对各项语法内容出现的先后顺序做了通盘考虑和合理的调整,使课文和语法配合紧密,“语法解说”中的例句丰富、实用。

词语解释适合学习者学习日语的需要。对每个动词,均列出了与之配合使用的助词,并举出例句。对一些惯用词语,均从使用的环境、语气、语义等多方面进行分析比较,以期学习者能深入了解。

本教程题材广泛、内容丰富、结构严谨、编写科学,根据不同阶段日语学习的特点对四册教材的内容做出了切合实际的安排。本教程另一个显著特点是在选材上注重新颖、生动、贴近生活和时代,同时也注意到了文章的层次和品位,比任何同类教材更有深度和广度,同等程度上使学习者所掌握的知识更加全面,能较好地使学习者过渡到高级日语的学习。

本教程在编写中精益求精、力求准确。课文语法的编写借鉴了东京外国语大学留学生日本语教育中心、国际交流基金日本语中心等权威机构的日语教育方面的成果。在核对单词的词性、声调等方面参照了《岩波国语词典》《广辞苑》《NHK日本语发音辞典》等权威辞书。

这部教程的编写和出版,得到大连理工大学出版社宋锦绣老师及日语工作室各位编辑的鼎力支持和协助,在此表示深深的谢意。

由于时间仓促、水平有限,教程中一定存在不少这样或那样的缺点和不足,真诚地希望日语界各位同仁和广大同学批评、指正,以便在今后的工作中加以改进、完善。

杨树曾

常熟理工学院

2010年7月

目 录

第一单元

第一課 身体に関する言い回し

前文	1
単語	3
文法解説	7
一、～ということを～と言う/～することを～と言う	二、～のも無理はない
三、慣用表达方式: 「頭が上らない」「顔を立てる」「大目玉を食う」「鼻の先で人をあしらう」	
四、～はしない/やしない/もしない	五、いわく～と
六、～に至っては	
読解文 ありそうな話	12
練習	13

第二課 なんでも見てやろう

前文	17
単語	20
文法解説	24
一、～からには	二、～ていると、～がどんなに～かがわかる
三、～もあれば(いれば)～もある(いる)	四、～ならでは
五、～かのように	六、あたかも～ようだ
七、「や」的詞類差別	八、动词「むく(剥く)」和「はぐ(剥ぐ)」
読解文 満開の桜	28
練習	30

第三課 立ち読みの楽しみ

前文	34
単語	37
文法解説	40
一、「～目にとまる」和「～目を盗む」	二、なんとしても～ねばなるまい
三、～だけでも	四、ほかならぬ+体言
五、～しらを切る	六、～わき目もふらず
七、副词「わざと」	八、动词「向く」和「向ける」
読解文 日本家屋の特色	43
練習	45

第四課 屋根の上のサワン

前文	48
単語	51
文法解説	57
一、接续词「さもなければ」	二、～をもって
三、～気が付く	四、～目が覚める
五、～もたれる	六、接续词「かつ」
七、～という～	八、～によっては
九、～向き	
読解文 大造じいさんと雁	61
練習	63

第五課 教養とは何か

前文	66
単語	68
文法解説	72
一、～とすれば	二、～をとわず
三、～よりも、むしろ～である	四、～とはいうものの
五、副词「より」	六、～役割をはたす
七、～所以のものは～に非ず、～に有り	八、副词「まして」
読解文 福沢諭吉	75
練習	78

第一単元のまとめ	81
----------	----

第二單元

第六課 小僧の神様

前文	82
単語	85
文法解説	90
一、～べき+体言	二、～たいものだ
三、终助词「かい」	四、腹がへる
五、～に向かって	六、それにしても
七、副词「もしかしたら」和「ただ」	八、「掴む」和「握る」
読解文 濠端の住まい	93
練習	95

第七課 サークスの馬

前文	98
----	----

単語	101
文法解説	106
一、接续词「そのくせ」	二、接尾词「だらけ」
三、～によらず	四、別段～ない
五、词语「様子」	六、～呆気にとられる
七、体言+なしに（は）	八、～見当が付く
九、～我に返る	
読解文 子供団長	109
練習	110

第八課 クジラが人間を注目し始めた

前文	114
単語	116
文法解説	122
一、～をおいて	二、～からある
三、「出す」构成的复合动词	四、～ては
五、～にとどまる	六、とも～ともつかない
七、～臭い	八、接尾词「ぶり」
九、～かのように	十、～に従い
十一、～まさに	十二、连体词「ちょっとした」
読解文 川縁の道	126
練習	127

第九課 陰影の美

前文	131
単語	133
文法解説	138
一、文语「沖せん」	二、のみならず～も～
三、～と言えども	四、副词「少なくとも」
五、けだし（思うに）～は～のであろう	六、なんと～（こと）だろう
七、～とて	八、～を余儀なくされる
読解文 日本人の心と家	141
練習	142

第十課 風の旅

前文	146
単語	150
文法解説	153
一、～をよそに	二、～の極み

三、接续词「だからといって」	四、～もしないで/～もせず	
五、～とはいえ		
六、「～気がひける」「～気に留めない」和「～そっぽを向く」		
読解文 風立ちぬ		156
練習		157
第二単元のまとめ		161

第三單元

第十一課 先生と私

本文		162
単語		164
文法解説		169
一、接尾词「ごと」	二、接续助词「ところを」	
三、～だの～だの	四、形式体言「ところ」	
五、～や否や	六、腰を下ろす	
七、副词「さっさと」	八、形容词「こころよい」	
読解文 坊っちゃん		172
練習		173

第十二課 自然のシステムに学ぶ

前文		176
単語		178
文法解説		181
一、～が～なら～は（も）～	二、あまり	
三、～からなる	四、～に沿って	
五、动词「焼く」		
読解文 都市と農村		184
練習		186

第十三課 日本人のグループズム

前文		189
単語		190
文法解説		193
一、～になると	二、接尾词「気味」和「半分」	
三、～た上で（に）	四、～の下に（で）	
五、副词「曾て」		
読解文 日本人の人間関係		197
練習		198

第十四課 青い壺

前文	201
単語	204
文法解説	207
一、～へ～へと	二、終助词「け」
三、接续助词「ては」	四、副词「手に手に」
五、副词「もうじき」	六、息が切れる
読解文 仏頂面の女の子	209
練習	211

第十五課「ありがとう」と言わない重さ

前文	214
単語	217
文法解説	219
一、～ながらも	二、～とも～とも～ない
三、～もさることながら	四、～はさておいて（さておき）
五、～耳にする	六、副词「未だしも」
七、副词「尚且つ」	
読解文 物質文明の光と陰	222
練習	223
第三単元のまとめ	227

第四单元

第十六課 外来語と日本文化

前文	228
単語	230
文法解説	233
一、～おかげで	二、～気が付く
三、～様子	四、接尾词「み（味）」
五、副词「ついに」「とうとう」「やっと」「ようやく」	
六、副词「ますます」「どんどん」「だんだん」	
読解文 和語・漢語・外来語をめぐって	237
練習	239

第十七課 蛙

前文	242
単語	244

文法解説	246
------	-----

一、接尾词「しな」「ごっこ」

二、接续助词「に」

三、～と見えて

四、副词「たった」

五、动词「干す」

六、动词「脹らむ」

読解文 木の根	248
---------	-----

練習	249
----	-----

第十八課 音

前文	252
----	-----

単語	254
----	-----

文法解説	256
------	-----

一、それほど～か

二、副词「なんと」

三、～にも

四、～に代わる

五、～といって

六、动词「取り巻く」

読解文 映画と小説	258
-----------	-----

練習	260
----	-----

第十九課 棒

前文	263
----	-----

単語	266
----	-----

文法解説	270
------	-----

一、接续词「だからといって」

二、～せいか

三、～ためか

四、口をきる

五、腹を立てる

六、终助词「だって」

七、副词「まっしぐら」「とやかに」

八、动词「跳ね返る」

読解文 日本の物価と税金	273
--------------	-----

練習	274
----	-----

第二十課 トロッコ

前文	278
----	-----

単語	281
----	-----

文法解説	285
------	-----

一、～が早いか

二、～ないまでも

三、～ついでに

四、副词「一思いに」「直に」

五、副词「せめて」「悠悠」

読解文 日本の気候風土	287
-------------	-----

練習	289
----	-----

第四単元のまとめ	293
----------	-----

第一課 身体に関する言い回し

はがやいち
芳賀矢一



「風邪をひいた」ということを「I have drawn wind.」と言ったり、「たばこをのむな」ということを「Don't drink tobacco.」と言ったりして笑われたことは、よく耳にする話である。日本ではたばこをのむというが、中国流に言えば喫煙で、食べるのであり、西洋流のスモークはくゆらす・吹かすの意味である。このように国々によってそれぞれの言い回し方が違う。外国語を学んでいちばん難しいのはこの言い回し、慣用語をのみこむ——のみこむも一種の日本の慣用語である——ことで、我々が平生何気なく使っている言い回しの中にも、よく考えてみれば、ずいぶんおもしろいことが多い。まず身体に関したものをあげてみよう。

頭と顔——「あの人は頭がいい」「頭がしっかりしている」というのは脳のよいことで、これは明治以後の新しい言い回しである。西洋語を知った人の使いはじめた言葉であろう。「頭を縦に振る」のは承知すること、「横に振る」のは不承知のこと、「頭が高い」というのはおじぎの仕方の丁寧でないこと、これらは実際の挙動を言い表したのである。「顔が広い」ということは、顔幅の広いのではなく、世間の付き合いの広いこと、付き合いが広ければ方々へ顔を出すから、自然にその顔が広がるのである。顔は個人の看板のようなもので、お互い同志職別するのも顔による。うれしいことも悲しいこともいやなことも、まず第一に顔に表れる。喜怒色に表れぬというのは、よほどの英雄であって、恥ずかしい時にはだれでもぱっと赤くなる。人の感情は顔に表れるように作られているのである。それゆえ、恥ずかしい時には、そこで顔を隠したり、顔を背けて人に見られぬようにする。「顔が出されません」とか、「面目が無い」というのはすなわちそれで、古い国語では「面ぶせ」と言った。「どの面さげて来た」とののしられるのはこういう時である。それでも平気であるのを「面の皮が厚い」といい、「鉄面皮」という。「面の皮千枚張り」などという恐ろしい形容の語もある。それゆえ、人の言い分を通し、その人の意志を承認することを「顔を立てる」という。「おれの顔を立ててくれ」といい、「君の顔に免じてそうしよう」などと話が落着く。これに反して、承知せぬ時は、言い出した人の「顔が立たぬ」。「顔がつぶれる」。顔は元来立っているものでもないが、つぶれては大変だ。不名誉のことをすれば、自分の顔がつぶ

れるのみではない。親・兄弟・友だちの「顔を汚す」いわゆる「面汚し」になって、みんなの「顔に泥を塗る」のである。そのほか、「借りる時の地蔵顔、返す時の閻魔顔」「知らん顔」「泣き顔」「泣き面」など、顔の種類は数限りなく多い。

目——顔には目や鼻や口がある。顔の表情はこれらのものの助けが多い。人間の目のひとみは、ねこのように太くなったり細くなったりはしないが、喜怒哀楽につれて、第一に変化を生ずるのは、やはり目である。感情の激しい時には涙というものが目の中にわいてくる。それが悲しい時とおかしい時の両極端に出るのも不思議ではないか。それゆえ、「目を細くする」時は平和の時で、「目を怒らす」「目に角を立てる」場合などは感情の激しい時である。「目を逆立てる」ことは実際は難しかろう。しかられるほうでは「大目玉を食う」と感ずる。驚いた時は「目を丸くする」のもありがちである。「目の色を変える」のはとにかく非常の場合で、「目が据わる」のは酔った人の形容。ことわざにいわく、「目は口ほどにものを言う」と。

鼻——鼻は顔の中央に位して、顔の品位を作るのにあずかって力がある。あぐらをかいた鼻は、低くて上品でない。高いのが上等と思われたから、自慢することを「鼻にかける」といい、「鼻を高くする」という。少し得意になれば「鼻をうごめかす」。威張る人は「鼻の先で人をあしらう」ことがある。「この私が」などと鼻を指すのを見ても、個人はある意味において鼻をもって代表されるのである。古い軍記物語で「鼻白む」ということはびっくりすること。びっくりすれば鼻が白くなるというのは、恥ずかしい時に顔が赤くなるのと正反対である。「鼻につく」「鼻つまみ」などは嗅覚から出た言い回しである。

口——口は食物を入れる関門で、同時に言語を発する器官である。「口に合わぬ」「口がおごる」などは食物のほうからいった言葉で、「口が悪い」「口が重い」などは言語についての慣用句である。「口すぎ」は糊口というのと同様で、この語を聞くと、生きるために食うのか、食うために生きるのか、何となく生活難の感を引き起こす。これに反して、「口車」という一語はいかにもいつわりの多い世の中を眼前に浮かばせる。「口は災いのもと」ということは、主としてものを言う時の戒めであろうが、暴飲・暴食の戒めにも応用ができる。重宝なもの口、危ないのも口、とにかく「口をふさごう」としても、「人の口には戸が立てられぬ」ものである。

耳——「耳を傾ける」というのは漢語がもとで、傾聴する様子。「耳をふさぐ」は聞くをいうので、聞いて心に感動を与える場合には、国語では「耳立つ」という。これは見る時にも同様で、「目立つ」という語がある。「耳よりの話」というのは望ましいことを聞いた時にいう。耳は顔の外に出ているから、外気にふれやすい。したがって外からくる音声はいちばん早くはいる。その代わり寒い風などは最も強く感じる。それゆえ、「耳を切るような寒さ」などという。「耳にたこのできるほど聞いた」というのもおもしろい形容である。

胸——顔はすんで胸にさがる。「胸が痛い」「胸がつかえる」。精神状態の苦悶は、胸にきて現れることが多い。ようよう「胸が開いた」「胸がすいた」は、それがなおつ

たのである。胸の中には心臓がある。人の感情はたちまち心臓の鼓動に影響するから、昔の人がこれを精神作用の本源地と思ったのも無理はない。「胸算用」「胸勘定」などの語もある。「胸がつぶれる」のは驚きの時、「胸の火が燃える」のは怒りの時である。

腹——腹の中には食物を消化する胃・腸がある。「腹がへる」「腹がふくれる」はもっともなことであるが、ここも感情を表す所と見られて、「腹が立つ」というのは、考えればおもしろい。「腹にすえかねる」から、反対に立つのであろう。「腹いせ」といって、日ごろの無念を晴らすこともある。胆力といって、腹の中肝から元気が出ると考えたから、驚くのを「肝をつぶす」という。「腹黒」といい、「腹がきたない」というに至っては、全く精神が腹の中にあると考えたらしい。「よく腹で味わってみろ」というのも、考えてみようということである。笑う時に、「腹筋をやる」というのは実際の状態である。また「腹の皮をやる」ともいう。それと同じように「へそが茶を沸かす」ともいう。腰がすわらなければ武芸はできぬ。それゆえ、ひきょうなやつは「腰抜け武士」である。まだまだあるが、このくらいでやめる。

単語

しんたい① (身体)	「名」	身体
ちゅうごくりゅう④ (中国流)	「名」	中国式
せいようりゅう③ (西洋流)	「名」	西方式
くゆらす③	「他五」	熏, 吸(烟), 抽(烟)
适用助词: ~が(は) ~を~		
▲ はまきをくゆらす。/ 吸雪茄烟。		
ふかす② (吹かす)	「他五」	吸(烟), 喷(烟)
适用助词: ~が(は) ~を~		
▲ たばこを吹かす。/ 吸烟。		
かよう⑩	「形动」	这样, 如此
いいまわしかた⑥ (言い回し方)	「名」	措辞方法, 表达方法
かんようご③ (慣用語)	「名」	惯用语, 成语
のみこむ③⑩	「他五」	吞下, 领会, 理解
适用助词: ~が(は) ~を~		
▲ つばをのみこむ。/ 咽下唾沫。		
へいぜい⑩ (平生)	「名・副」	平素, 平常
せいようご③ (西洋語)	「名」	西方语言
ふしょうち② (不承知)	「名・形动」	不答应, 不赞同
かおはば⑩ (顔幅)	「名」	脸的宽度
どうし① (同志)	「名」	同伴, 二人同属于一类(的人)

しきべつ①(識別)

「名・他サ」 识别, 辨别

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ ことのよしあいを識別する。/ 识别事物的好坏。

きど①(喜怒)

「名」

喜怒

それゆえ①

「接」

因此, 所以

そむける③(背ける)

「他一」

(把脸等)背过去

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ 顔を背けて泣く。/ 背过脸去哭。

めんぼく①(面目)

「名」

(文语)脸面, 体面, 名誉

おもてぶせ①(面ぶせ)

「名」

脸藏起来, 脸朝下

つら②(面)

「名」

(俗)面孔, 脸面

さげる②

「他一」

提, 挂, 降低, 降下

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ 温度をさげる。/ 降低温度。

ののしる③

「自他五」

大声吵嚷, 吵骂; 骂

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ 人をののしる。/ 骂人。

てつめんぴ③(鉄面皮)

「名・形动」

厚脸皮, 厚颜无耻

せんまいばり①(千枚張り)

「名」

(脸皮)厚, 千层

いいぶん①①(言い分)

「名」

主张, 意见

しょうにん①(承認)

「名・他サ」

承认, 认可

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ これ以外は承認しない。/ 除此以外, 概不承认。

かおをたてる(顔を立てる)

「组」

给面子

めんじる①③(免じる)

「他一」

(文语)看在……的份儿上

适用助词: ~が(は) ~に~

▲ 親に免じてこんどだけは許す。/ 看在你父母的份儿上饶你这一次。

らくちゃく①(落着)

「名・自サ」

着落, 归结, 解决

适用助词: ~が(は) ~に~

▲ 事件が円満に落着いた。/ 事情圆满地解决了。

かおがたつ①(顔を立つ)

「组」

保住(面子)

ふめいよ②(不名誉)

「名・形动」

名声不好, 不体面

かおがつぶれる①(顔がつぶれる)

「组」

丢脸, 丢人

よごす①(汚す)

「他五」

弄脏, 弄污

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ 本を汚す。/ 把书弄脏。

つらよごし③⑤(面汚し)

「名」

出丑, 丢面子

ぬる①(塗る)

「他五」

涂, 抹

适用助词: ~が(は) ~を~

▲ 薬を塗る。/ 抹上药。

じぞうがお(地藏顔)

「名」

温和面庞, 笑容

えんまがお(閻魔顔)

「名」

怒气冲冲的脸

なきつら⑩ (泣き面)

「名」

哭脸

あいらく⑩① (哀楽)

「名」

(文語) 哀乐

しょうずる⑩③ (生ずる)

「自他サ」

发生, 产生

适用助词: ~が (は) ~を~

▲ ぎわくを生ずる。/ 产生疑惑。

いからす③ (怒らす)

「他五」

怒(目), 瞪(眼), 激怒

适用助词: ~が (は) ~を~

▲ 冗談で相手を怒らした。/ 因开玩笑惹怒了对方。

さかだてる④ (逆立てる)

「他一」

倒立, 倒竖

适用助词: ~が (は) ~を~

▲ ハリネズミは敵におそわれると針を逆立てる。/ 刺猬一遭到敌人的袭击, 就把刺倒竖起来。

おおめだま③ (大目玉)

「名」

大眼珠, 责备, 申斥

おおめだまをかう (大目玉を食う)

「组」

挨一顿申斥

ありがち⑩

「名・形动」

常有

よう① (酔う)

「自五」

醉, 喝醉, 晕(车、船)

适用助词: ~が (は) ~に~

▲ 船に酔う。/ 晕船。

いわく①

「副」

……曰, 云

あずかってちからがある (あずかって力がある)

「组」

对……很有贡献

あぐら⑩

「名」

盘腿坐

あぐらをかいたはな (あぐらをかいた鼻)

「组」

扁鼻子

はなにかける (鼻にかける)

「组」

夸耀得意

はなをうごめかす (鼻をうごめかす)

「组」

洋洋得意

はなのさき⑩ (鼻の先)

「名」

鼻子尖儿, 眼前

あしらう③

「他五」

待遇, 对待, 应付, 慢待

适用助词: ~が (は) ~を~

▲ 人を鼻先であしらう。/ 待人冷淡。

しらむ② (白む)

「自五」

变白, 发白

适用助词: ~が (は) ~

▲ 東の空が白む。/ 东方发亮。

はなつまみ⑤ (鼻つまみ)

「名」

讨厌的人, 讨厌鬼

きゅうかく⑩ (嗅覚)

「名」

嗅觉

かんもん⑩ (関門)

「名」

关口

きかん② (器官)

「名」

器官

くちがおごる (口がおごる)

「组」

口味高, 挑剔饮食

かんようく③ (慣用句)

「名」

成语, 惯用句

くちすぎ⑩ (口すぎ)

「名」

谋生, 糊口

ここう①⑩ (糊口)

「名」

糊口, 生计

せいかつなん④ (生活難)

「名」

生活困难

くちぐるま③ (口車)

「名」

花言巧语

いつわり④⑩ (偽り)

「名」

虚伪, 谎言

がんぜん⑩③ (眼前)

「名」

眼前

わざわい⑩ (災い)	「名」	祸, 灾难 (面苦い) ⑩さきそ
しゅとして①② (主として)	「副」	主要 (業習) ①しゅとして
いましめ⑩ (戒め)	「名」	劝诫, 戒备 (業習) ⑩いましめ
ぼういん⑩ (暴飲)	「名・自サ」	暴饮 (業習) ⑩ぼういん
适用助词: ~が (は) ~で~		
▲ 手術で暴飲することができない。/ 因手术不能暴饮。		
ぼうしょく⑩ (暴食)	「名・自サ」	暴食 (業習) ⑩ぼうしょく
适用助词: ~が (は) ~で~		
▲ 手術で暴食することができない。/ 因手术不能暴食。		
ちようほう① (重宝)	「名・形动」	宝贝, 方便, 适用 (業習) ①ちようほう
ふさぐ③⑩	「自他五」	塞, 闭, 堵 (業習) ③⑩ふさぐ
适用助词: ~が (は) ~を~		
▲ ねずみの穴をふさぐ。/ 堵老鼠洞。		
けいちょう⑩ (傾聴)	「名・他サ」	倾听 (業習) ⑩けいちょう
适用助词: ~が (は) ~を~		
▲ みんなの意見を傾聴する。/ 倾听大家的意见。		
いとう②	「他五」	厌, 嫌 (業習) ②いとう
适用助词: ~が (は) ~を~		
▲ 万里の遠きをいとわない。/ 不远万里。		
みみだつ③ (耳立つ)	「自五」	刺耳; 听得很清楚 (業習) ③みみだつ
适用助词: ~が (は) ~		
▲ 彼の話ぶりには耳立つことがある。/ 他的话听起来有些刺耳。		
めだつ② (目立つ)	「自五」	显眼, 引人注目, 显著 (業習) ②めだつ
适用助词: ~が (は) ~		
▲ 長所が目立つ。/ 优点明显。		
みみより⑩ (耳より)	「名・形动」	令人喜欢听, 值得一听 (的事) (業習) ⑩みみより
のぞましい⑩④ (望ましい)	「形」	符合心愿的 (業習) ⑩④のぞましい
がいき① (外気)	「名」	户外的空气 (業習) ①がいき
たこ① (胼胝)	「名」	胼胝, 老茧 (業習) ①たこ
つかえる⑩	「自一」	(胸口)堵塞, (心中)憋闷 (業習) ⑩つかえる
适用助词: ~が (は) ~		
▲ 胸がつかえて吐き出しそうだ。/ 胸中发闷想吐。		
くもん⑩ (苦悶)	「名・自サ」	苦闷 (業習) ⑩くもん
适用助词: ~に~		
▲ 心に苦悶する。/ 心里苦闷。		
ようよう⑩	「副」	好不容易, 总算, 渐渐 (業習) ⑩ようよう
こどう⑩ (鼓動)	「名・自サ」	(心脏的)搏动, 悸动 (業習) ⑩こどう
适用助词: ~が (は) ~		
▲ 心臓が鼓動する。/ 心脏跳动。		
ほんげんち③⑩ (本源地)	「名」	发源地 (業習) ③⑩ほんげんち
むなざんよう③ (胸算用)	「名」	心中盘算, 内心估计 (業習) ③むなざんよう